

「保健医療科学」
第64巻 第1号 予告

特集：睡眠と健康：ライフステージとライフスタイル（仮題）

睡眠と健康：幼児期から思春期前（仮題）	土井由利子，石原金由，内山真
睡眠と健康：思春期から青年期（仮題）	池田真紀，兼板佳孝
睡眠と健康：成人期（勤労者）（仮題）	高橋正也
睡眠と健康：高齢者の睡眠と睡眠障害（仮題）	三島和夫
睡眠と健康：女性の睡眠と健康（仮題）	香坂雅子

編 集 後 記

ビッグデータという言葉をよく耳にするようになったのはこの数年のことである。その言葉からは「巨大なデータ」というイメージを持つ人が多いかもしれないが、総務省の情報通信白書によると、単にデータ量が膨大というだけでなく、多量性、多種性、リアルタイム性等が特徴として挙げられるという。つまり情報通信技術の進展に伴って多量・多種のデータがリアルタイムで蓄積可能となり、そのようなデータを上手に分析し活用すれば、様々な業務や、政策をも効率的・効果的に推進できるようになると期待されている。しかし、ビッグデータの活用はまだ緒に就いたばかりである。いかにデータの収集・加工・集計のためテクノロジーが進化しても、保健医療福祉分野の専門職がデータの背景にある本質を読み解く能力を磨かなければ、データに振り回されるだけで、エビデンスに基づいた政策を推進していくことはできない。

今号の特集「エビデンスに基づく医療政策へのDPCデータの活用」では、そのようなビッグデータでもあるDPCについて、導入プロセス、医療計画作成支援データブックと活用事例、国立保健医療科学院での研修、自治体での分析・活用の実際等について興味深い解説や報告がされている。本特集を参考に、また国立保健医療科学院の研修等を通じてデータの本質を読み解く能力を持つ人材が増え、エビデンスに基づいてPDCAサイクルが展開され、効果的・効率的な医療政策が推進されていくことを願う。

（生涯健康研究部 横山徹爾）